

# 世界自然遺産白神山地における英語ガイドツアーの取組について

東北森林管理局技術普及課 緑の普及係長 ○熊谷 有理  
企画係長 根岸 由佳

## 1. はじめに

白神山地は、青森県と秋田県の県境にまたがる標高約 200m～1,250m の山岳地帯の総称で、東アジア最大の原生的なブナ林を有している。林野庁では平成 2 (1990) 年、その中心部にあたる国有林 16,791ha を森林生態系保護地域に指定した。また平成 5 (1993) 年には同地域全域が UNESCO 世界自然遺産に登録された。

白神山地世界遺産地域の管理にあたって、「白神山地世界遺産地域管理計画」(平成 25(2013)年 10 月改定)では、管理の目標を「白神山地の顕著な普遍的価値である東アジア最大のブナ林とその生態系を、将来にわたって保全していくこと」と定めている。そしてそのためには、遺産地域の保全・管理や適正な利用に向けて、白神山地の自然、文化等に対する人々の理解を促すことが必要であるとし、「エコツーリズムの推進」や「環境教育、情報発信、普及啓発」を管理の方策の一環として掲げている。東北森林管理局でもこれらの方策を進めるため、青森県側では津軽白神森林生態系保全センター、秋田県側では藤里森林生態系保全センターにおいて、自然再生活動や森林環境教育を実施している。

しかし、観光資源としての白神山地を見ると、決して明るい状況にあるとはいえない。青森県観光入込客統計、秋田県観光統計及び環境省の白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数調査によれば、過去 10 年間の白神山地周辺地域への観光入込客数及び入山者数は減少傾向であり、特に入山者数の減少は著しく、平成 26 (2014) 年にはついに 2 万人を割った。一方で、全国的には、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催決定を追い風に、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014」(2014 年 6 月 観光立国推進閣僚会議)のもと、観光施策、特にインバウンド(外国人旅行客誘致)施策の強化が進んでいる。

このような背景から、白神山地についても、遺産地域の適正な利用と地域振興に向けて、今後は外国人に対しても PR していくことが必要となる。そこで東北森林管理局では、平成 26 (2014) 年度の新たな取組として、白神山地において外国人を対象とした英語によるガイドツアーを試行することとした。

## 2. 方法

英語ガイドツアーは、津軽白神森林生態系保全センター及び藤里森林生態系保全センターが「森林ふれあい推進事業」として一般公募した参加者を対象に年数回実施している貸切バスガイドツアーの中で計 2 回行った。英語ガイドは東北森林管理局職員を各回 2 名ずつ配置し、参加者は外国人と日本人を合わせて募集した。

### (1) ツアーの実施行程

1 回目は 10 月 22 日(水)に青森県側で、津軽白神森林生態系保全センターの主催で実施した。バスの発着は青森市内(青森市役所柳川庁舎前、JR 青森駅及び JR 新青森駅)とし、西目屋村の「暗門の滝」を散策した後、「マザーツリー」とよばれるブナの巨木を見学した。

2回目は10月25日(土)に秋田県側で、藤里森林生態系保全センターと、地元で環境教育などの活動を行っている(一社)秋田白神コミュニケーションセンターとの共催で実施した。バスの発着は能代市のJR東能代駅及び八峰町の道の駅みねはまとし、藤里町の「ニツ森」を登った後、八峰町の「留山」のブナ林を見学した。

(2) ツアーの準備にあたって

英語ガイドツアーは初めての試みだったため準備段階で工夫が求められた。

一つは、英語ガイド内容の準備である。これは基本的に日本語ガイドを通訳する形としたが、いきなり本番での通訳は難しいので、事前に日本語・英語のガイドスタッフが一緒に現地を下見し、協力して白神山地の基礎情報や、季節に応じた見学箇所ごとのガイド項目を書き出し、計75項目の日英対訳表を作成した(図1)。全て暗記はしなかったものの、用語や言い回しの英訳を事前に調べておくことで、当日のガイドに役立った。

No	項目	内容		
		日本語	英語	
1	白神山地の概要 Overview of Shirakami-Sanchi	位置 Location	白神山地は、青森県と秋田県の県境にまたがる標高約200mから1,250m、面積45,000haに及ぶ山岳地帯の総称。約12,000~8,000年前から北日本の丘陵や山地を覆っていた原生的なブナ林が大面积にわたって残存している。そのうち16,971haが世界遺産に登録されている。	Shirakami-Sanchi refers to the mountainous region, which lies across the border between Aomori and Akita Prefectures. It has an area of 45,000ha (450km <sup>2</sup> ) with altitudes ranging from 200m to 1,250m (just over 1,200m). Shirakami-Sanchi contains the largest remnant of beech forest in East Asia, which has covered the hills and mountains of northern Japan since about 12,000 to 8,000 years ago. Of this forest, the central area of 16,971ha (about 17,000ha) has been designated as a World Heritage Site since 1993.
~75				

図1：ガイド内容の日英対訳表(例)

もう一つの工夫は、広報や情報提供である。従来のように東北森林管理局のウェブサイトや地元の新聞などに簡単な広告を掲載するだけでは外国人に情報が伝わらないので、まずは英語の広報用資料として、ツアーのチラシ(図2)と東北森林管理局ウェブサイトの特設ページを作成した。チラシでは、見学箇所の簡単な紹介文や写真を載せてツアーの内容をイメージしやすいようにし、ウェブサイトでは白神山地の概要も含めてチラシより詳細な情報を掲載した。

また、ツアー開催に関する8月8日付けプレスリリースについても、英語版を作成し、国内の英字新聞に直接情報提供した。

さらに、より幅広く情報を拡散するため、国土交通省東北運輸局、白神山地世界遺産地域連絡会議(環境省、県、市町村)、各県の国際交流協会、大学、観光案内所やホテルなどにも情報提供を依頼し、その結果、ウェブサイトへの掲載や、チラシの設置など様々な形で協力を得られた。

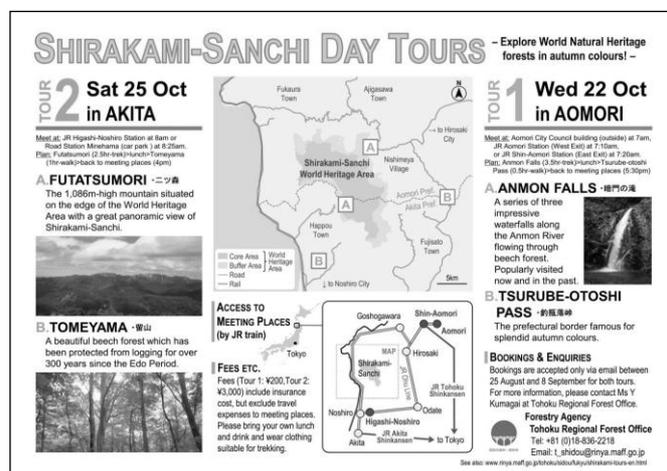


図2：ツアーチラシ(英語)

このように、従来よりも積極的な広報を行い、8月25日からの2週間で参加者を募集した。また同時に、ツアーの普及効果を上げるため教育関係者にも参加してもらいたいという考えから、地元市町村で働く外国語指導助手（ALT）の参加も呼びかけた。

### 3. 結果

#### (1) ツアーの参加者

外国人参加者はALTを含めて青森県側で2名、秋田県側で5名の計7名（20～30代の女性5名・男性2名）となった(表1)。国籍は様々であり、このうち旅行者は1名で、他の参加者は仕事などで長期滞在している者だった。

月日		10月22日(水) 青森県	10月25日(土) 秋田県
外国人	公募	1 マレーシア人旅行者	3 ベトナム人大学院生 ペルー人教師 ドイツ人研究者
	ALT	1 ニュージーランド人 (鱒ヶ沢町)	2 アメリカ人 (能代市)
	計	2	5
日本人		20	9
合計		22	14

表1：ガイドツアー参加者

#### (2) ツアーの様子

ツアーでは外国人参加者のそばに英語ガイドスタッフが付き、日本語のガイドを通訳しながら歩いた（写真1～2）。両日も天候に恵まれ無事に終えることができた。



写真1：10月22日のツアー



写真2：10月25日のツアー

#### (3) ツアーの成果

外国人参加者へのアンケート結果から読み取れるツアーの成果は以下のとおりである。

##### ① インターネットの広報効果

参加者のうち、市町村の役場経由で案内したALT以外は、インターネットでツアーの情報を得た者が多く（図3）、インターネット活用による広報効果を確認できた。

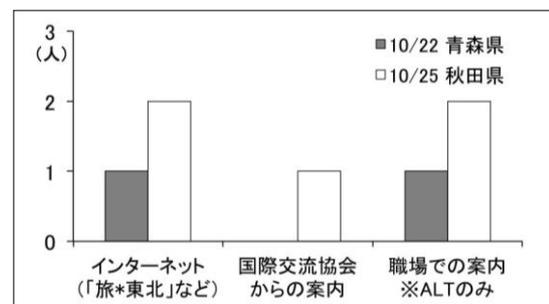


図3：ツアーに関する情報源

## ② 英語ガイドによる外国人誘致

ツアー参加を決めた理由として、見学箇所への興味や、自然・登山が好き、という理由の他に、英語ガイドがあったからという理由もあげられ(図4)、白神山地自体の魅力の上に、英語ガイドの提供が付加価値となり、外国人を誘致する効果があることがわかった。

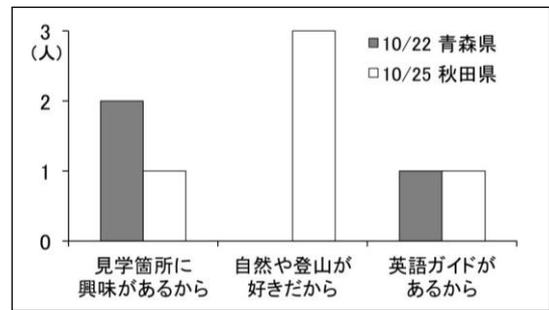


図4: ツアー参加を決めた理由

## ③ ツアー全般に対する好評価

見学箇所やガイドなどの5項目について5段階で評価してもらったところ、すべて「とても良い」又は「良い」という評価だった(図5)。感想としても、「説明が丁寧で、知識が豊かだった」、「英語ガイドのおかげで説明を100%理解できた」など、好評を得た(図6)。

このことから、直接確認したわけではないものの、英語ガイドを通じて白神山地や日本の森林・自然環境への理解を深めてもらえたのではないかと考える。

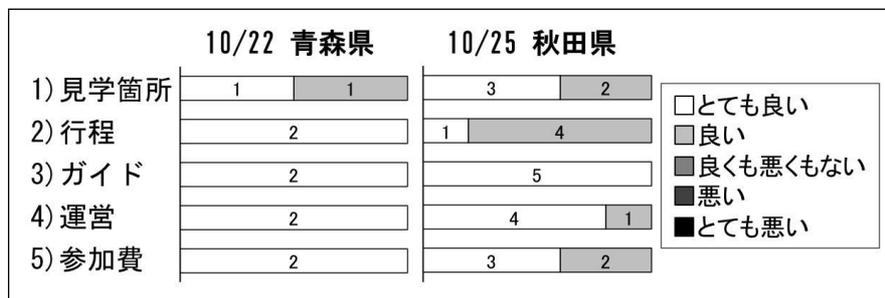


図5: ツアーに対する評価

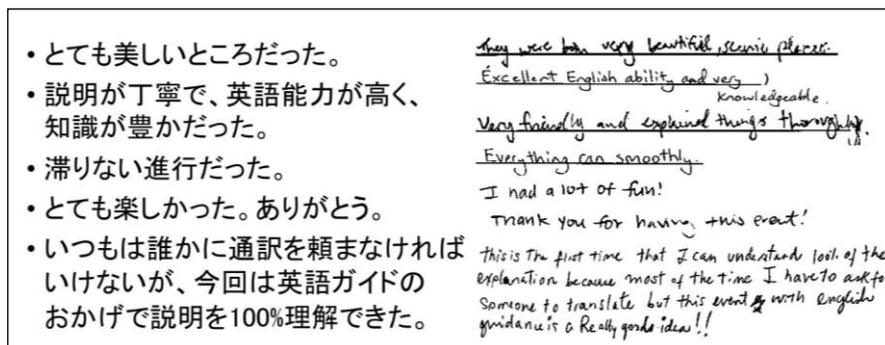


図6: 参加者の感想

## 4. まとめと課題

以上の成果から、英語ガイドツアーは白神山地を外国人にもPRしていく試行的取組として成功したといえる。しかし、同時に次のような課題も明らかとなった。

### (1) 実行体制

今回は、英語ガイドを東北森林管理局職員が行ったが、継続的に実施するためのスタッフを確保するには、外部との連携も視野に入れる必要がある。

一方で、今回作成したガイド項目の日英対訳表について、これを基に一般的なガイドマニュアルのような資料を作成・共有することができれば、英語が堪能でなくても外国人客を案内する際に活用しうる。また、これは、必ず押さえておきたいガイドのポイントをスタッフ内で共有するという意義もあり、他のガイド業務でも共通して使える方法である。

## (2) 広報…特に旅行者に向けて

今回のツアーでは従来以上に広報に力を入れたものの、外国人参加者は7名にとどまり、そのうち旅行者は1名のみだった。

数ある旅行者向けの観光情報ウェブサイトの中には「クラシファイド広告」といって、イベント情報を無料で投稿できるサービスを提供しているものもあり、今後はこういった媒体も活用していくべきである。今回のツアーに限らず、より多くの人々に情報提供するには、地元の新聞や広報誌だけでなく、インターネットをはじめとした多様な情報手段を駆使する必要がある。

また、単発的なイベント情報だけでなく、対象となる場所の基本的な情報についても、今まで以上に多言語による発信を充実させていくことが必要である。それによって人々に普段から関心を持ってもらうことが、イベントに参加するきっかけになるのではないかと考える。

さらに、ガイドツアーの場合、目的とする対象者によって、実施方法や行程の見直しも検討すべきである。例えば、今回は、ツアー実施日の1か月以上も前に2週間という短期間で参加者を募集したが、旅行者の参加を促すならば、募集期間を長くしたり、ツアーの発着場所を旅行者が集まりやすい滞在拠点の都市にしたりするなど、工夫の余地はある。そして、これは他のツアーを実施する際も考えていくべき課題である。

このように、白神山地における英語ガイドツアーは初めての取組として手探りな部分が多く、課題が残されたが、上述した実行体制や広報の課題については他のツアーやイベントにも共通することから、今回の経験は今後の普及啓発活動にも活かせるものとなった。これからも、東北森林管理局技術普及課では、地域の方々と連携しながら、世界自然遺産白神山地の保全のための普及啓発活動に様々な形で取り組んでいきたい。